

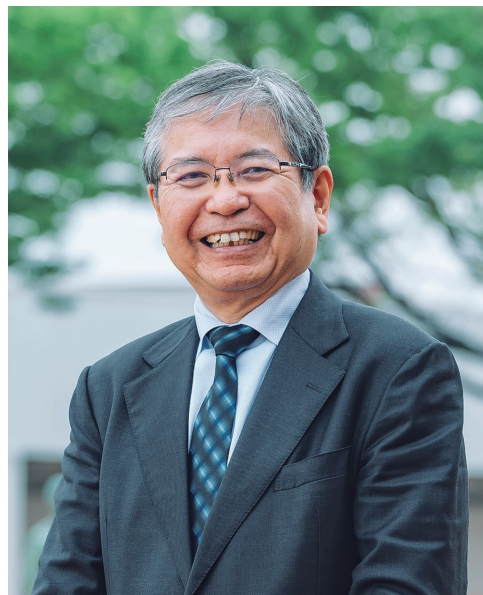
# 2025年春から近未来を見据えて

熊本県立大学長 堤 裕昭  
Tsutsumi Hiroaki

今年も熊本にいつもの春が訪れ、いたる処で桜の花が咲き誇り、はかなくも散り行き、時が常に我々の前を過ぎ去りゆくことを伝えてくれます。この時の流れの中で、本学の新しい1年が始まります。大学は多くの先達が積み上げてきた学問を学び、その学びをもとに近未来の学問を探求し、育み、その活動の弛むことない繰り返しの中で、将来の自らの幸福の土台を作り上げ、社会の健全な発展に貢献していく場となるところです。

現在、本学を取り巻く熊本の社会では最先端の半導体産業や関連する様々な産業が急速な発展を遂げつつあり、向い来る上げ潮に乗った雰囲気になっています。また、それは日常生活を支える様々な社会の基盤が安定していることの上に成り立っていることであり、このことに従事する人々の穏やかな息づかいが聞こえて来ます。それは当たり前の日常の出来事であるかもしれませんが。

一方、その向こうから正反対の荒れた空気が流れ込んでくることも感じざるを得ません。気候変動の進行によって、いつもの季節の移り替わりには様々な変化が起きつつあり、それに伴って自然災害が頻発しています。また、世界の様々な地域から人々の争い事のニュースが飛び込んできて、日本列島を取



り巻く海にも荒い波が及びつつあります。

さあ、熊本県立大学に係わる皆さん、大学を通してこれまでに学んだこと、これから学ぶことをもって、各人の幸福の実現のみならず、熊本そして1つの地球の上の世界に住み、同じ時を過ごす人々と平和に暮らしていくために、近未来を見据えて今我々は何を考え、何をなすべきでしょうか？

